

村上・岩船地区大会

8月23日(土) 教育情報センター

多くの観覧者を前に、発表者は、堂々たる姿でそれぞれの自分の思いを発表しました。

その中から、大会で最優秀賞に選ばれた有本らなさん(村上中等教育学校3年)の発表内容と市内各校の代表者を紹介します。

なお、最優秀賞の有本さんは、9月20日(土)に開催された新潟県大会に村上・岩船地区の代表として出場しました。

●問い合わせ 村上地域振興局保健福祉部
(村上保健所内) ☎53-8361



最優秀賞

ありもと
有本 らなさん

=村上中等教育学校3年=

『『当たり前』がもつ力』

「ありがとう」「今日は何回言えるかな」この標語は私が小学生の時に考えた標語です。

「ありがとう」「この言葉には不思議な力があると私は考えます。その力というのは、言われた方だけではなく、言った方も自然と笑顔にさせる、そんな力です。」

世の中にはこの「ありがとう」のように、不思議な力を秘めた言葉がたくさんあると考えます。その例として挙げるのが「行ってきます」「と言えは行つてらっしゃい」と「ただいま」と言えは「おかえり」と返ってくる私たちの日常生活において何気なく使っている言葉です。誰もが

一度は耳にするこの言葉。いったいどんな力が秘められているのでしょうか。

今年4月に韓国で起きた旅客船セウォル号沈没事故。死者は200名を超え、現在も行方不明者がいるというとても悲惨な事故です。ニュースで毎日のように増えていく死者の人数。番組内で流れていた事故直後の映像は今も頭から離れません。1人でも多くの命が助かります

ようにと、私はテレビからこのニュースが放映される度に願っていました。そんな時、私は次のようなニュースをテレビで見ました。それは、セウォル号沈没事故の第一通報者の少年についてのもので、その少年は船が傾き始めてから約3分後に119番通報。少年は震えながらも必死に救助を訴えたそうです。そんな少年を父は「家族のもとへ電話せず、先に通報して天国へ旅立った息子が誇らしい。でも、本当に会いたい」と涙を流して話をしていました。そして、明るい笑顔で「行ってきます」と出かけて行った息子の姿が最後だったと続けていました。

この時、私は思ったのです。

父は息子からの「ただいま」をどれだけ心待ちにしていたのだろうかと。父は「ただいま」そのたった一言を懸命に待っていたはずですが。しかし、その願いは叶いませんでした。私たちが普段何気なく聞いている当たり前前の言葉が聞けなくなる。ただそれだけで人の日常は一瞬にして暗く冷たい海の底のように変わってしまうのです。

みなさんも考えてみてください。「行ってきます」と言ったら大切な人から「ただいま」の言葉が聞けなくなる辛さを。「行ってらっしゃい」と言ってくれた大切な人から「おかえり」の言葉が聞けなくなる辛さを。

確かに、日常生活の中で当たり前に返ってくる言葉が数多くあります。「ありがとう」と言おうと「ごうございました」と。「バイバイ」と言おうと「バイバイ」と。たかが返事が返ってくるだけかもしれないませんが、現代社会において、このたった一言のやりとりができない人もおり、人間関係の希薄化が近年、問題視されています。だからこそ相手を思いやる「愛」が込められている、このような何気ない言葉のキャ

チボールが大切になってくるのです。

学校で疲れて帰宅し、玄関を開けて「ただいま」と言つと「おかえり」という母の声が聞こえてきます。すると、私はいつの間にか温かい気持ちになるのです。もし、「ただいま」と言つて「おかえり」と言う言葉が返ってこなければ不安で悲しい気持ちになってしまいます。だからこそ、「行ってらっしゃい」にはどんなに辛いことでも自分自身を頑張れる気持ちにしてくれる、「おかえり」には

今日も一日頑張りましたと疲れた私を癒してくれる、そんな力が秘められていると考えます。

自分の将来や夢のために私たちは日々努力しています。しかし、実はこれらの何気ない当たり前の言葉こそが私たちに明るい未来へと導いてくれる「言葉」「いや」「愛」があふれた「愛言葉」なのです。

さあ、みなさんもこの「愛言葉」を言つてからその玄関の扉を開いてみませんか。



優秀賞



さかい ともみ
酒井 友美 さん

= 荒川中学校 3年 =

「バランスのとれた人間に」

中国と日本の中学では大きな違いがある。それは部活動の有無である。バランスのとれた人間

を目指して、勉強と部活動の両方を頑張りたい。



たしま りゅうと
田島 隆斗 さん

= 平林中学校 3年 =

「臓器移植から命を考える」

最近、自分は将来の夢を持つことにより、臓器提供に対する考え方が変わった。臓器移植をテーマに命の尊厳について考えてみた。

マに命の尊厳について考えてみた。

奨励賞



すがわら すずね
菅原 鈴音さん

= 村上東中学校 3年 =

「失敗を忘れてはいけない」

多くの体験から、「失敗を忘れてはいけない」という思いを持った。これからの生活でも、失敗を

忘れずに、自分の弱いところを克服しようと努力できる人になりたい。



なかつか めぐみ
中東 恵さん

= 村上第一中学校 3年 =

「『仲間』と『感謝』」

中学生活の中で感じる仲間の大切さ。そんな仲間と何かをやり

遂げた時の充実感について伝えたい。



いたがき みなみ
板垣 南実さん

= 朝日中学校 3年 =

「支え合う社会を」

サッカーワールドカップにて日本人サポーターのマナーが賞賛され、ボランティア活動について

考えた。自分のできることをやっていきたい。



よしむら はやと
吉村 駿斗さん

= 岩船中学校 2年 =

「伝統を受け継ぐためには」

伝統文化である「岩船大祭」単に楽しむだけの参加ではなく、知ること、関心を持って参加すること、地域の一員として関わり続けていきたい。

と、地域の一員として関わり続けていきたい。



おだ ゆうな
小田 祐奈さん

= 神納中学校 3年 =

「差別と偏見のない世界へ」

「場面緘黙症」という不安を抱え、周囲とうまく関われなかった経験から、人生の中で出会う人達

と、偏見を持たずに関わるのが自身の世界を広げていくことにつながる。



さいとう はるな
齋藤 香菜さん

= 山北中学校 3年 =

「山北の未来のために」

少子高齢化が進み人口減少している山北は、良いところがたくさんある。良さをアピールし、

知ってもらふことや、出来ることを実行し、山北の未来を私たちの手で作り上げたい。

◎市外(岩船郡)の代表で、本保たからさん(粟島浦中学校2年)、大島清楓さん(関川中学校3年)が奨励賞を受賞しました。